

ほんだなの森



がっこうとしょかんしえんいん かねこ ともこ
学校図書館支援員 金子 智子

12月は読書月間ですね。図書室では、いろいろな本の特集コーナーを用意して待っています。図書委員会による読書ビンゴイベントにも、ぜひ参加してください。今回は、冬にまつわる本を6冊紹介します。

『さむがり王さまおばけの子』



てらむらてるお ちよ
寺村輝夫/著
りろんしゃ
理論社 913/て

さむいあさ、学校をやすみたい王さまは、「ようし、ほんとにかぜをひいてやれ。」と、わざとうすぎでかけます。体育のサッカーでゴールキーパーになった王さまは、さむさにふるえながらシュートを受けとめますが…。「ちいさな王さま」のシリーズです。

低学年向け

『生き物たちの冬ごし図鑑 動物』



いまいずみただあき かんしゅう
今泉忠明/監修
ちようぶんしゃ
汐文社 481/い

草木はかれ、虫やちいさな生きものもすがたを消してしまうため、冬はどうぶつたちにとってきびしい季節です。この本では、さまざまなどうぶつたちが、どのようにして冬のあいだを生きのびているのかをしょうかいています。植物・昆虫・鳥編もあります。

『黒ねこのおきやくさま』



ちよ あら やく
ルース・エインズワース/著 荒このみ/訳
ふくいんかんしよてん
福音館書店 93/え

冷たい雨がふる晩、おじいさんが、週に一度のちそうの、肉とミルクとパンを食べようとしていると、みすぼらしいやせた黒ねこが戸口にやってきます。たべものを全部黒ねこにあげてしまったおじいさんに、つぎの日、不思議なことがおこります。

『「和」の行事えほん 秋と冬の巻』



たかの のりこ さく
高野紀子/作
あすなろ書房 38/た

12月は、1年のしめくりとあたらしい年を迎える準備をする時期ですね。この本では、大みそかやお正月など、「和」の伝統行事や季節の楽しみなどが、行事の意味や由来などとともに紹介されています。

『小さな町の風景』



すぎ こ ちよ
杉みき子/著
かいせいしゃ
偕成社 913/す

町の子どもたちが、近くの山へスキーにでかけるときに必ず通る「門」。それは、田んぼの中に立つ2本のハンノキの木でした。ところがある日、この2本の木が切り倒されてしまいます。(木のある風景「門」)作者の出身地、新潟県高田をモデルにした作品集。

高学年向け

『34丁目の奇跡』

ちよ かたおか やく
ヴァレンタイン・デイヴィス/著 片岡しのぶ/訳
あすなろ書房 93/て



ニューヨークにあるメイシー百貨店のおもちゃ売り場に雇われた老人クリスは、サンタクロースにそっくり。優しくて思いやりのあるクリスは、百貨店の人気者になります。しかし、それを面白く思わない人々により、とうとう、ある裁判が起こってしまいます。